

# 正負の数 No.8

組 番 氏名 教師用

## 1 復習問題（個人→一斉）

$(+4) - (+6) + (-4) - (-6)$  という式について、次の問いに答えましょう。

- (1) 減法を加法にし、加法だけの式になおしましょう。
- (2) 上の(1)の式の項をすべていいましょう。
- (3) 上の(1)の式を計算し、和を求めましょう。

(1) $(+4) + (-6) + (-4) + (+6)$	(2) $+4$ , $-6$ , $-4$ , $+6$
(3) $0$	

前回の授業では、正負の数の減法について考えました。

今回の授業では、加法と減法の式を“（ ）を使わずに表す方法”について考えます。

例えば、復習問題で示された式は（ ）を使わずに表すとどんな式になるのでしょうか？

### 今日のめあて

加法と減法の式を（ ）を使わずに表す方法について考えてみよう。

## 2 加法と減法それぞれの場合で、式を（ ）を使わずに表す方法について考えてみよう。 (班→一斉)

○パターン1：加法の式を（ ）を使わずに表す

問1：公園に 5人 のこどもがいました。そこへ新たに 3人 のこどもがやってきました。

- (1) 問1の場面について、符号と（ ）を使って加法の式をたて、こどもの人数を求めましょう。
- (2) 上の(1)の式の項をすべていいましょう。
- (3) 問1の場面について、小学校で学習したように符号と（ ）を使わずに式をたて、こどもの人数を求めましょう。

(1) 式： $(+5) + (+3)$	こどもの人数： $+8$ 人
(2) 項： $+5$ , $+3$	※ $+8$ 人は、8人と同じです。
(3) 式： $5 + 3$	こどもの人数： $8$ 人

※ このことから、(3)の式は

- ① (1)の式の項だけを並べて  $+5 + 3$  とする
- ② 式のはじめにある  $+$ の符号を省略する（あってもなくても式の意味は変わらない）という手順で、(1)の加法の式を（ ）を使わずに表した物としてみるができます。  
→ (3)の式のように（ ）を使わずにたてた式を、「項だけを並べた式」といいます。  
→ (3)の式は、 $+5$  と  $+3$  の2つの項だけを並べた式としてみるので、これからは「5 たす 3」ではなく、「5 プラス 3」と読みます。

# 正負の数 No.8

組 番 氏名 教師用

○パターン2：減法の式を（ ）を使わずに表す

問2：公園に 5人 のこどもがいました。そのうち 3人 のこどもが家に帰りました。

- (1) 問2の場面について、符号と（ ）を使ってこどもの人数を求める減法の式をたてましょう。
- (2) 上の(1)でたてた 減法の式 を 加法の式 になおして、こどもの人数を求めましょう。
- (3) 上の(2)の式の 項 をすべていいましょう。
- (4) 問2の場面について、小学校で学習したように 符号と（ ）を使わずに 式をたて、こどもの人数を求めましょう。

(1) 式： $(+5) - (+3)$	
(2) 式： $(+5) + (-3)$	こどもの人数： $+2$ 人
(3) 項： $+5$ , $-3$	※ $+2$ 人は、2人 と同じです。
(4) 式： $5 - 3$	こどもの人数： $2$ 人

※ このことから、(4)の式は

- ① (1)の減法の式 を、(2)の加法だけの式 になおす
- ② (2)の式の 項 だけを並べて  $+5 - 3$  とする
- ③ 式のはじめにある  $+$ の符号 を省略する（あってもなくても式の意味は変わらない）という手順で、(1)の減法の式を（ ）を使わずに表した物 としてみることができます。  
→ (4)の式のように（ ）を使わずにたてた式を、「項だけを並べた式」といいます。  
→ (4)の式は、 $+5$  と  $-3$  の2つの項だけを並べた式としてみるので、これからは「 $5$  ひく  $3$ 」ではなく、「 $5$  マイナス  $3$ 」と読みます。

③ 加法と減法の混じった式を、（ ）を使わずに表してみよう。（班）

問3：次の式を、ア：加法だけの式 になおしてから、イ：項だけを並べた式 に表しましょう。

- (1)  $(+8) + (-9) - (-2)$                       (2)  $(-1) - (+3) + (-7)$

(1) ア： $(+8) + (-9) + (+2)$	イ： $8 - 9 + 2$
(2) ア： $(-1) + (-3) + (-7)$	イ： $-1 - 3 - 7$

※ 式のはじめにある  $+$ の符号 は省略しますが、  
式のはじめにある  $-$ の符号 は省略しません。（式の意味が変わってしまうため）

振り返り（わかったこと・わからなかったこと・考えたことなど）

今日の理解度：    A        B        C    （振り返りが終わったら、予習 → 問題集）
---

次回の授業では、項だけを並べた式の計算方法について考えます。

# 正負の数 No.8

組 番 氏名

## 1 復習問題

$(+4) - (+6) + (-4) - (-6)$  という式について、次の問いに答えましょう。

- (1) 減法を加法にし、加法だけの式になおしましょう。
- (2) 上の(1)の式の項をすべていいましょう。
- (3) 上の(1)の式を計算し、和を求めましょう。

(1)	(2)
(3)	

前回の授業では、正負の数の減法について考えました。

今回の授業では、加法と減法の式を“( )を使わずに表す方法”について考えます。

例えば、復習問題で示された式は( )を使わずに表すとどんな式になるのでしょうか？

### 今日のめあて

## 2 加法と減法それぞれの場合で、式を( )を使わずに表す方法について考えてみよう。

○パターン1：加法の式を( )を使わずに表す

問1：公園に5人のこどもがいました。そこへ新たに3人のこどもがやってきました。

- (1) 問1の場面について、符号と( )を使って加法の式をたて、こどもの人数を求めましょう。
- (2) 上の(1)の式の項をすべていいましょう。
- (3) 問1の場面について、小学校で学習したように符号と( )を使わずに式をたて、こどもの人数を求めましょう。

(1) 式：	こどもの人数： 人
(2) 項：	※ +8人は、8人と同じです。
(3) 式：	こどもの人数： 人

※ このことから、(3)の式は

- ① (1)の式の項だけを並べて  $+5+3$  とする
- ② 式のはじめにある+の符号を省略する(あってもなくても式の意味は変わらない) という手順で、(1)の加法の式を( )を使わずに表したものとしてみるができます。  
→ (3)の式のように( )を使わずにたてた式を、「項だけを並べた式」といいます。  
→ (3)の式は、+5と+3の2つの項だけを並べた式としてみるので、これからは「5 たす 3」ではなく、「5 プラス 3」と読みます。

# 正負の数 No.8

組 番 氏名

○パターン2：減法の式を（ ）を使わずに表す

問2：公園に 5人 のこどもがいました。そのうち 3人 のこどもが家に帰りました。

- (1) 問2の場面について、符号と（ ）を使ってこどもの人数を求める減法の式をたてましょう。
- (2) 上の(1)でたてた 減法の式 を 加法の式 になおして、こどもの人数を求めましょう。
- (3) 上の(2)の式の 項 をすべていいましょう。
- (4) 問2の場面について、小学校で学習したように 符号と（ ）を使わずに 式をたて、こどもの人数を求めましょう。

(1) 式：	
(2) 式：	こどもの人数： 人
(3) 項：	※ +2人 は、2人 と同じです。
(4) 式：	こどもの人数： 人

※ このことから、(4)の式は

- ① (1)の減法の式 を、(2)の加法だけの式 になおす
- ② (2)の式の 項 だけを並べて  $+5-3$  とする
- ③ 式のはじめにある +の符号 を省略する（あってもなくても式の意味は変わらない）という手順で、(1)の減法の式を（ ）を使わずに表したものとしてみることができます。  
→ (4)の式のように（ ）を使わずにたてた式を、「項だけを並べた式」といいます。  
→ (4)の式は、 $+5$  と  $-3$  の2つの項だけを並べた式としてみるのので、これからは「5 ひく 3」ではなく、「5 マイナス 3」と読みます。

③ 加法と減法の混じった式を、（ ）を使わずに表してみよう。

問3：次の式を、ア：加法だけの式 になおしてから、イ：項だけを並べた式 に表しましょう。

- (1)  $(+8) + (-9) - (-2)$                       (2)  $(-1) - (+3) + (-7)$

(1)	ア：	イ：
(2)	ア：	イ：

※ 式のはじめにある +の符号 は省略しますが、  
式のはじめにある -の符号 は省略しません。（式の意味が変わってしまうため）

振り返り（わかったこと・わからなかったこと・考えたことなど）

今日の理解度：    A        B        C    （振り返りが終わったら、予習 → 問題集）

次回の授業では、項だけを並べた式の計算方法について考えます。